

足指で文字打ち20年

成清さんのコラム集出版

柳川



足の指でキーボードを打つ成清さん

脳性まひで手足に障害を抱えながら、地域メディア（ミニコミ誌）へのコラムを執筆してきた成清規さん（60）は柳川市在住のIIのコラム集が出版され、11月30日に関係者へ披露された。足の指でパソコンのキーボードを打ち、約20年にわたって社会、教育など多岐にわたるテーマを取り上げてきた成清さん。出版に合わせ、福祉職を志す人へのメッセージも書き下ろし、障害のある人と社会の人々の間にある見えない壁を「かんなのように削ってほしい」とつづっている。

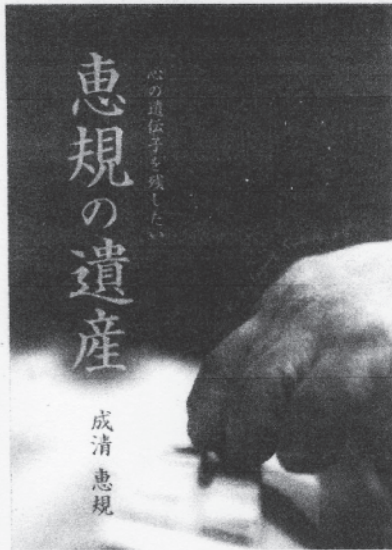
成清さんは生後2カ月で脳性まひとなり、小学校に3カ月通っただけで学校教育をほぼ受けていない。同市の社会福祉法人「たからぼこ」による就労支援を受けつつ、2002年から17年まで市民団体「福祉ネット宝箱」が有償頒布する同

名の会報（益金を就労支援に活用）へコラムを執筆。テレビのチャンネルを自力で変えられないため、教育番組を見続けたことが知識の源泉になったという。その人柄は「明るくポジティブ」（法人関係者）。コラム集のタイトルは

「恵規の遺産——心の遺産を残したい」。子どもがいない成清さんにとって、自身の文章を読んだ人が何らかの影響を受け、その後の人生が少しでも変化すれば、「僕が生きた意味がある」との願いを込めた。掲載コラム120本の中から、24本をえりすぐり、働くことの意味、自然科学や落語へのいざない、スカイダイビングの体験などを収録した。

コラム集は会報の編集委員会が発刊元となり、30日には完成品を成清さんに贈呈。成清さんは取材に対し、「障がい者の皆さんには、自分自身がかな（大工道具）になったつもりで大いに表へ出て、一般社会の心の壁をどんどん削ってほしい」と文章で回答。「健常者の皆さんにはウェルカム精神で障がい者を笑顔で受け入れてほしい」と呼び掛けた。17年以降も不定期で記事などを書くこともあったというが、60歳定年を

自身に課して退職するとい「これからは自分の好きなことに時間をとれる環境に身を置きたい」とした。コラム集は四六判128ページ。500部発行し、価格は税込み1200円。同法人が運営する障害者就労支援施設「第1宝箱そらまめ」は同日三橋町蒲船津IIで販売する。平日午前9時から午後6時まで。出版は有明新報社。問い合わせは、第1宝箱そらまめ（電話738849番）へ。（牛島 亮介）



恵規の遺産

成清 恵規

出版された成清さんのコラム集